

⑬ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭57-36226

⑤ Int. Cl.³
E 02 D 27/01

識別記号

庁内整理番号
7017-2D

⑬ 公開 昭和57年(1982) 2月27日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 2 頁)

⑭ 育苗ハウス建築のための束石による基礎工法

旭川市 4 条通23丁目右 1 号

⑮ 特 願 昭55-110704

⑮ 出 願 人 朝日工機株式会社

⑯ 出 願 昭55(1980) 8 月11日

旭川市 4 条通23丁目右 1 号

⑰ 発 明 者 佐藤孝義

⑰ 代 理 人 弁理士 上野武治

明 細 書

本発明は建築に用いられる束石に関する構造である。従来の

1. 発明の名称

束石は上部が扇形の角錐形のつか柱にて上部に従って先細りと

育苗ハウス建築のための束石による基礎工法

なるものである。本州方面にては冬は地下の水分が、凍って霜

2. 特許請求の範囲

柱の形にならびたつも、北海道並に北陸地方の豪雪地帯にては

コンクリート角盤を設け、盤面の稍内方より角柱を上方に向

地下は零下30度にも達し地下深く凍結し、地表は凍上するに

けて先細りとなし、先端を土台を置くため太くした束石^にによる

いたる。本発明の束石は図を説明すればコンクリート製にて基

構造。

底の角盤(1)には盤面の稍内方よりつか柱(2)をたて上部が扁平(3)

3. 発明の詳細な説明

の角錐形である。今冷気が零下2桁にも及び地下が凍結せば、

地表を押上ぐると共に、東石の四辺の締めつけにより角柱(1)は

4. 図面の簡単な説明

下方に下がらんとし、角盤は地下よりて押し上ぐる力により、

力は均衡を保ち家屋の土台は少しも影響を受けず、かくて本発

明の東石は育苗ハウスの場合は一般の家屋と異なり床下がなく、

家屋が地下の凍上により間隙を生じ、ために冷気が侵入するた

めの影響を受くも本発明の東石は以上の欠点を排除するもの

にて理想的のものと思惟するものである。

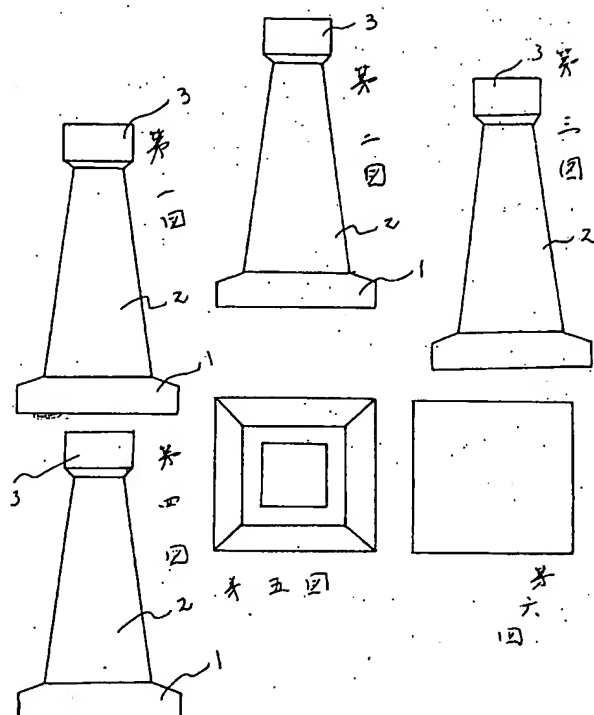
第一図 東石正面図 第五図 平面図
第二図 東石背面図 第六図 底面図
第三図 東石右側面図
第四図 東石左側面図

(1) 角 盤

(2) 東 柱

(3) 上部扁平の先端

特許出願人 朝日工機株式会社
代表取締役 佐藤孝義



PAT-NO: JP357036226A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 57036226 A

TITLE: CLUSTERED STONE FOUNDATION WORK FOR BREEDING
HOUSE
CONSTRUCTION

PUBN-DATE: February 27, 1982

INVENTOR-INFORMATION:
NAME
SATO, TAKAYOSHI

ASSIGNEE-INFORMATION:
NAME
ASAHI KOKI KK

COUNTRY
N/A

APPL-NO: JP55110704

APPL-DATE: August 11, 1980

INT-CL (IPC): E02D027/01

US-CL-CURRENT: 52/292, 52/294

ABSTRACT:

PURPOSE: To prevent the floating of a house due to the freezing of the ground under the house and also the intrusion of cool air by erecting a pillar on concrete square foundation.

CONSTITUTION: A foundation consists of a square concrete slab 1 having a tapered form directed from a little inside of the slab toward upward and a large diameter flat top on which the base of a house is to be placed. The use of the foundation enables one to prevent the floating of a house from the ground surface.